

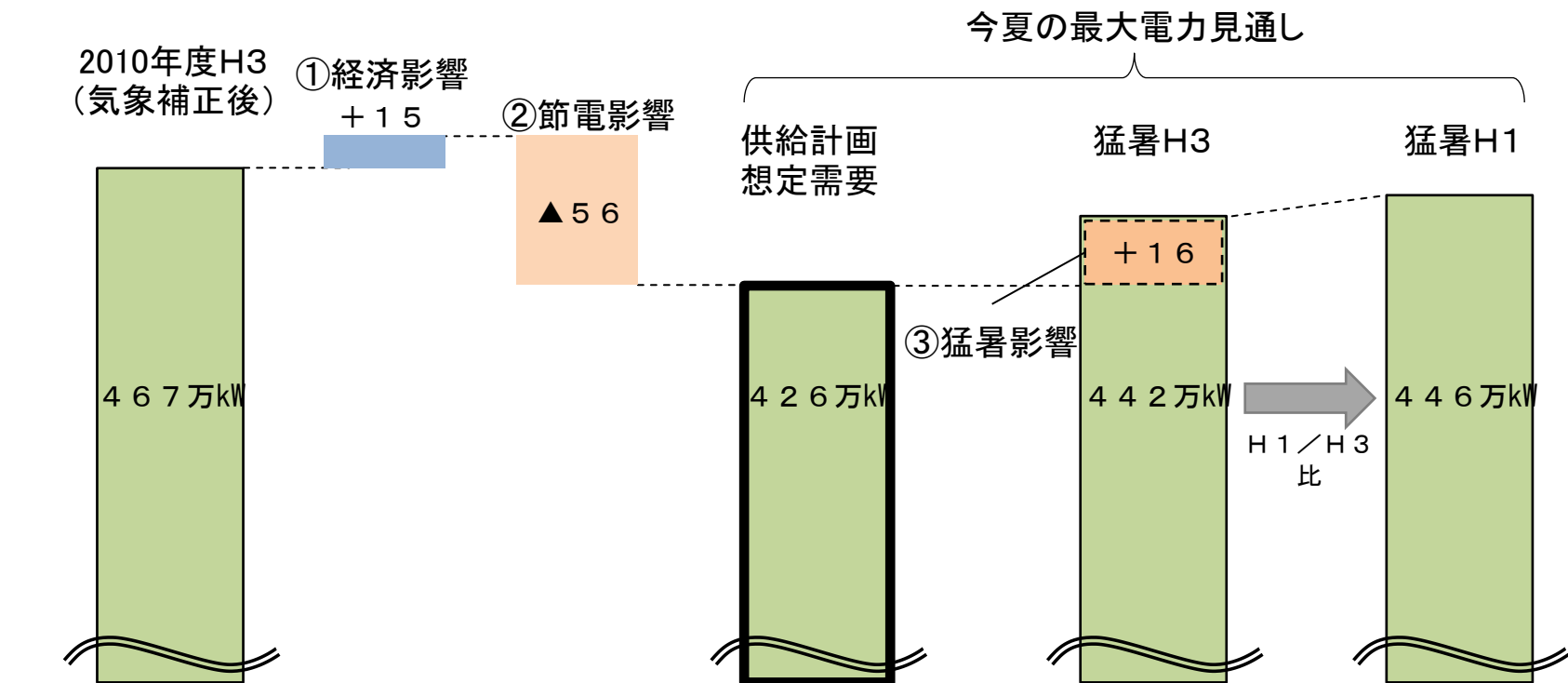
北海道供給区域における 今夏の電力需給見通しについて

2017年6月14日
北海道電力株式会社

1. 北海道供給区域における 今夏の見通し

(1) 今夏の需要見通し (送電端)

- 昨夏の需要見通しは、2010年度の気象補正後最大3日平均電力 (H3) 実績をベースに算出しておりました。
- 今夏の需要見通しからは、供給計画における需要想定値に過去10カ年で最も猛暑であった年 (2010年度) の気象影響を織り込み、**猛暑時の1日最大電力 (H1) を446万kW (8月) と想定しました。**
- 2010年度の気象補正後最大3日平均電力 (H3) と供給計画の想定需要を比較すると、経済影響+15万kW、節電影響▲56万kWとなります。



(2) 今夏の供給力見通し (送電端)

- ・供給区域の需要想定および供給力より策定された今夏の需給見通しは、下表のとおりです。
- ・供給予備率が最も厳しい8月は、猛暑時の1日最大電力(H1) 446万kWに対し、**供給力は511万kW (各事業者合計)**であることから、供給予備力65万kW、予備率14.7%となります。
- ・電力の安定供給に最低限必要な予備率である3%以上を確保できる見通しとなりました。

	今夏の見通し		
	7月	8月	9月
猛暑時の1日最大電力(H1)[万kW]	426 (426)	446 (446)	431 (431)
供給力(合計) [万kW]	498 (504)	511 (510)	495 (494)
供給予備力 [万kW]	71 (77)	65 (64)	64 (63)
予備率 [%]	16.7 (18.1)	14.7 (14.4)	14.8 (14.6)

※上段は電力需給に関する検討会合で示された需給バランス、下段は4月6日の当社公表値。

両値の差は供給区域〔エリア〕間取引と火力発電増出力の考慮の有無によるもの。

※四捨五入の関係で計算が合わない場合がある。

2. 国から示された今夏の 電力需給対策について

- ・ 5月12日に開催された国の電力需給に関する検討会合において、今夏の電力需給について、以下の対策を講じることが示されました（全国共通の対策）。

（1）需給ひっ迫への備え

- ・ 大規模な電源脱落等により、万が一、電力需給がひっ迫する場合への備えとして、以下の対策を行う。
 - ①発電所等の計画外停止のリスクを最小限にするため、電気事業者に対して、発電設備等の保守・保全を強化することを要請する。
 - ②電力広域的運営推進機関に対して、エリア内の需給状況を改善する必要があると認められる時は、速やかに、他の電気事業者に対して融通を指示する等の必要な措置を講じるよう要請する。
 - ③電気事業者に対して、デマンドリスポンス等、需要面での取組の促進を図るよう要請する。
 - ④産業界や一般消費者と一体となった省エネキャンペーン等を実施し、2030年度に向けた徹底した省エネの取組を進めていく。

（2）ひっ迫に備えた情報発信

- ①電力需給状況や予想電力需要についての情報発信を行う。
- ②上記の対策にもかかわらず、電力需給のひっ迫が予想される場合には、「需給ひっ迫警報」を発出し、節電の協力を要請する。

3. 当社の発電設備の定期点検・補修計画と 需給対策の取組みについて

(1) 発電設備の定期点検、補修

- ・発電設備の安定運転を維持するために、予備力を確保したうえで、必要な設備点検および補修を実施する計画としています。
- ・作業日数は、作業員の24時間2交代制の導入等により最大限短縮化を図っています。

	ユニット	主な点検・補修等の内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
火力	砂川4号機(12.5)	中間点検	■						
	奈井江1・2号機(35)	軽油サービスタンク修繕		■					
	苫東厚真4号機(70)	定期点検	■						
	伊達1号機(35)	ボイラ内部点検	■						
	伊達2号機(35)	復水器細管取替			■				
	知内1号機(35)	定期点検					■	■	
	知内2号機(35)	電気集じん装置内部点検	■						
	苫小牧1号機(25)	空気予熱器下部軸受修繕			■				
	音別1号機(7.4)	ガスタービン燃焼器他修繕						■	
	音別2号機(7.4)	ガスタービン付属設備他修繕			■	■			
	苫小牧緊急設置電源(7.4)	アンモニア消費施設点検		■					
水力	新冠2号機(10)	水車発電電動機定期点検		■					
	京極2号機(20)	ポンプ水車内部点検		■	■	■			
	京極1,2号機(40)	放水路点検					■	■	

※カッコ内の数値は認可出力(単位:万kW)を示す。

(2) 供給力対策の取り組み

- ・緊急設置電源の継続設置や火力発電設備の増出力運転、自家発電設備を保有するお客さまからの電力購入に引き続き取り組みます。

①緊急設置電源の継続設置

- ・昨夏に引き続き、苫小牧発電所（2012年7月16日運転開始）および南早来発電所（2012年12月7日運転開始）の緊急設置電源※を継続設置し、供給力を確保いたします。（計約15万kW）

※緊急設置電源の出力および台数

- 苫小牧発電所：1,030kW×26台、850kW×56台 計7,438万kW
- 南早来発電所：1,030kW×72台 計7,416万kW



【緊急設置電源（南早来発電所）】

②火力発電設備の増出力運転

- ・昨夏に引き続き、知内発電所2号機（定格出力35万kW）において、1万kW程度の増出力運転を供給力に織り込んでいます（冬季は10ユニットで6万kW程度の増出力運転が可能でしたが、夏季は海水温の上昇により出力が低下するため、見込めるのは1ユニットのみとなります）。

③自家発電設備を保有するお客さまからの電力購入

- ・道内の自家発電設備を保有するお客さまからの電力購入をお願いしてまいります。
- ・今夏においては、3万kW程度の電力購入を見込んでいます。

(3) 省エネ・節電に関する取り組み

- ・お客さまに引き続き省エネ・節電にご協力いただけるよう、今夏もさまざまな取り組みを行う予定です。

項目	今夏の取り組み
でんき予報	ホームページに掲載・Facebookで配信
ホームページ	動画等により具体的な節電方法等について紹介
垂れ幕・横断幕	掲示可能な7事業所に掲示
パンフレット	家庭向け、事業者向けに作成し配布
検針票によるPR	3か月(7月～9月)
全戸配布広報紙	3か月(7月～9月)
最適アンペアチェック	当社ホームページに掲載
使用実績のご案内	Web料金お知らせサービスにより実施
需給ひっ迫メール	引き続き、需給ひっ迫時に予め登録いただいたメールアドレスに緊急の節電のお願いする。

4. まとめ

- ・今夏の北海道供給区域における最大電力については、2010年度並の厳しい気象条件を前提に、最も需給が厳しい8月で、最大電力446万kWに対し、供給力511万kWの想定となりました。この結果、供給力と最大電力の差である供給予備力は65万kW、予備率にして14.7%となり、電力の安定供給に最低限必要な供給予備率である3%以上を確保できる見通しとなりました。
- ・今夏の需給見通しには、これまで同様、お客さまが継続している定着した節電効果を見込んでおります。引き続き、無理のない範囲での節電にご協力いただきますよう、お願いいたします。
- ・当社は供給力の確保に向けて、緊急設置電源の継続設置や火力発電所の増出力運転、自家発電設備を保有するお客さまからの電力購入に取り組みます。しかしながら、当社の火力発電設備は定期検査の繰り延べ等により計画どおりの点検ができておらず、高稼働が続いております。当社といたしましては、今後可能な限り、発電設備の点検・補修を実施することに加え、発電設備や連系する送電線の保守・点検体制の強化に努めてまいります。
- ・当社は、北海道における電力供給を万全なものにするため、安全確保を大前提に一日も早い泊発電所の再稼働を目指しており、引き続き原子力規制委員会による審査への対応や、安全対策工事に全力で取り組んでまいります。